



2016年5月11日



会社名 昭和電線ホールディングス株式会社
代表者名 取締役社長 相原 雅憲
(コード番号 5805 東証第1部)
問合せ先 経営企画部 IR・広報グループ長 舘山 雄一
(TEL. 03-5404-6951)

中期経営計画 2016～2018 について

当社は、2016年度（2017年3月期）までの中期経営計画を見直し、新たに2016～2018年度（2019年3月期）を対象にした昭和電線グループ「中期経営計画 2016～2018」を策定いたしましたので、その概要をお知らせいたします。

記

1. 背景

当社グループは、2014年5月13日に中期経営計画「GROWTH 2016」を掲げ、2020年に開催が決定した東京オリンピック・パラリンピックや社会資本の老朽化対策等に向けて需要の伸びが期待される市場を求め、事業展開を進めてまいりました。しかし、当社グループを取り巻く事業環境は、人手不足による建築工期の延伸、電力会社設備投資の回復の遅れ、新興国経済の景気減速等の影響により、中期経営計画「GROWTH 2016」で想定していた環境と大きく乖離してしまいました。

その様な状況下、当社グループは、事業環境の変化に合わせて子会社の統廃合等を実施してきましたが、さらなる収益構造改善に向けた取り組みを進めてまいります。

2. 基本方針

① 構造改革

② 成長分野への取り組み強化

3. 構造改革

- ・ 事業会社再編・組織のスリム化
- ・ 資産の有効活用
- ・ 不採算事業の再生に向けて
- ・ 海外事業の再生に向けて

4. 成長分野への取り組み強化

当社グループは、コア事業である建設・電販向けを中心とする電線線材事業を基盤事業とし、自動車、鉄道、道路、防災・減災、医療等の成長分野へ資源を投下してまいります。

5. 収益改善に向けて

2015 年度に実施した固定資産の減損により毀損した財務体質の改善に向けた取り組みを強化してまいります。新規中期経営計画最終年度（2018 年度）の目標は、以下の通りです。

① 固定費削減：2015 年度対比 15 億円

② 成長分野への取り組み強化による利益拡大：2015 年度対比 10 億円

③ 有利子負債：540 億円以下

6. 中期経営期間の設備投資計画

◆設備投資計画

(単位：億円)

	2015 年度実績	2016 年度	2017 年度	2018 年度
設備投資合計	40	34	35	35

7. 中期経営計画の損益計画

◆連結業績

(単位：億円)

	2015 年度実績	2016 年度	2017 年度	2018 年度
売上高	1,697	1,660	1,700	1,730
営業利益	9.4	25	30	35
経常利益	△14.6	10	15	20
親会社株主に帰属する 当期純利益	△91.5	6	9	12

本件に対するお問合せ先：

昭和電線ホールディングス株式会社

経営企画部 I R ・ 広報グループ TEL 03-5404-6951

以上